

平成28年12月1日号(No.170)

「 みんながって みんないい 」

伊丹市立総合教育センター

所長 後藤 猛虎

第68回全国人権週間が、12月4日から1週間、始まります。今年は人権に関わるショッキングな事件が起きました。それは、相模原市の障がい者施設での痛ましい事件です。抵抗のできない人を標的にして、多くの障がい者の命を奪うという、卑劣極まりない事件でした。容疑者の「障がい者は生きていても無駄」「安楽死させた方がいい」という言葉からは、障がい者に対する強い偏見や差別意識がうかがえます。容疑者がなぜこのような偏見や差別意識をもったのかは、今後の調べを待たなければなりません。しかし、この事件が私たちに問いかけているものは、大変重いものがあるように思います。それは、障がい者にとってまだまだ共生しにくい社会が厳然としてあるということです。



例えば、この事件では、警察は被害者全員を匿名で発表しました。それは、遺族から匿名にしてほしいという強い要望があったからだそうです。しかし、日本障害者協議会などは、「一人一人、積み重ねてきた歴史があり、人とのつながりもあった。その存在が消されたように思えてならない」「一人一人の死を悼みにくく、強い違和感を覚える」と匿名扱いに異を唱えています。それでも匿名にしなければならなかったのはなぜでしょうか。その背景には、家族に障がい者がいることを隠さなければならない社会がそこにあるということです。障がい者だから名前を出さないでほしいと家族に言わせる要因が社会にあるとしたら、本当に残念なことです。

金子みすゞの詩に『私と小鳥と鈴と』があります。「鈴と、小鳥と、それから私、みんながって、みんないい」と締めくくっています。人間はみんな同じではありません。一人一人違うことが自然なのだと思います。違いをいいと認め、尊重し合える共生社会を築くためには、人権意識を高め、人権感覚を常に磨くことを忘れてはなりません。特に、互いの違いや良さを子どもたちに気づかせ、他者への共感や思いやりを培う教師にはそれが求められるのです。

「みんながって みんないい」、そんな共生社会を早く築きたいものです。

情報モラル・情報セキュリティ ～問題と対策について～

情報教育の推進やICT機器の活用等、教育の世界でも様々な面で情報化が進んでいます。しかし、便利になっていく一方で、様々な問題も発生しています。今月号は情報モラル・情報セキュリティについて、先生方が関わる可能性の高い事柄についてまとめました。問題と対策、付随する知識を学び、適切に情報を扱えるようになりましょう。



個人情報とは・・・

- ①生存する個人に関する情報
- ②特定の個人を識別することができるもの
- ③ほかの情報と容易に照合することができるものと定められています。【個人情報保護法 第2条より】

具体的には、
基本的な情報・・・名前、住所、電話番号、年齢、写真など
出生の情報・・・生年月日、血液型、家族構成など
記号情報・・・保険証や免許証、パスポート、マイナンバー
 学校においては、**子どもの日々の記録・成績の情報**などが該当します。

外部からのメール・WEB閲覧で起こる問題

【問題】

- ・メールに添付された悪意あるプログラムへの感染
- ・メールに記載されたURLのクリックによる、悪意あるホームページへの誘導
- ・ホームページ内に埋め込まれた悪意あるプログラムへの感染
- ・正規ホームページに似せた、悪意あるホームページへの個人情報等の入力

【対策】

- ウイルスチェックソフトを**最新の状態**に保つ
- 身に覚えのないメールを**安易に開かない**
- メール内のリンクは、**信頼できるメールであることを確認**の上、接続する
- 個人情報等は、必ず**正規のホームページか確認**してから入力する
- 万が一、PCの動作がおかしいと思ったら、**まずLANケーブルを抜く**(ネットワークから切断され、他のPCへの感染拡大を食い止めます)

悪意あるメール・ホームページに関して、受取人に関係のある情報を件名やアドレスに使ったり、正規の会社を装って個人情報を入力させたりしようとするフィッシングサイトが増えています。

騙されないためには、**セキュリティに関する最新情報を入手**しておくこと、**メールを注意深く読む**ことが大切です。不審に思うものがあれば、**閲覧の前に、システム担当者や管理職に相談**しましょう。

気を付けよう！

怪しいメールを見抜くポイント

悪意を持って送信されたメールも内容が巧妙化され、一見すると問題なさそうに見えます。以下のポイントに注意しましょう。

- なぜ自分にそのメールが届くのか、**心当たりがない**
- フリーのメールアドレス**から送られてきている(@yahoo.co.jp・@gmail.com等)
- 件名に【緊急】【重要】【至急】などの**キーワード**が含まれている
- 内容があいまい**で、誰にでもあてはまるものである(あなたのPCが危険です！ 大事な情報です。至急ご確認ください！等)
- 添付ファイルの拡張子が「.exe」になっている(圧縮ファイルを解凍すると中身が「.exe」という例もあります)
- 本文中のURLが、**本文と関係ないもの**になっている

情報の破損・情報の盗用



USBメモリの使用で起こる問題

【問題】

- ・USBメモリをPCに差したまま席を離れる、無造作に机の中に入れておく等、不適切な管理によるUSBメモリの紛失
- ・学校外へUSBメモリを持ち出し、紛失したことによる情報流出
- ・パスワードの流出による第三者の情報抜き取り

【対策】

- 個人情報は保存しない**
- 定期的な棚卸**による現物の確認
- 使った後はすぐにファイルを消去し、**所定の保管場所へ返却**する
- パスワードは本人だけが分かるように**管理する

☆万が一、USBメモリを紛失してしまったら・・・

○**すぐに管理職及びシステム担当に報告**する
 ※時間・場所・保存ファイルの内容を正確に報告してください。迅速な対応が、被害を最小限に食い止めます。

USBメモリの紛失等によるや情報の流出が起こってしまうと、**本人はもちろん、学校や教職員、市全体の信用失墜**につながります。

そうならないためにも、USBメモリは、普段からきちんと**管理場所を定めるとともに、管理方法を徹底**しましょう。

情報の流出・信用の失墜

SNSの使用・WEBへの書き込みで起こる問題

【問題】

- ・教職員として不適切な内容の書き込み
- ・学校の出来事など、守秘義務に関わる書き込み
- ・児童生徒の個人情報に関する書き込み

【対策】

- 閲覧範囲の限定**がされていても、学校のことを書き込まない
- 学校に関わる情報発信は、必ず**事前に管理職に相談**し、学校のホームページ等、公式にアップロードする
- 子どもの**個人情報**は、いかなる理由があっても書き込まない

SNSや掲示板への書き込みは、いかなる場面でも**教職員としての立場を意識**する必要があります。

また、閲覧範囲を限定していても、**閲覧可能な人から情報が漏れてしまう**こともあります。一度出てしまった情報は二度と回収することができません。

これだけは守ろう！大事なポイント

USBメモリの取り扱い

- 個人情報を保存しない**
- 管理の場所・方法を定め、徹底**する

万が一、紛失してしまったら・・・

怪しいメールを受信したら不審なWEBサイトは

- 開かない**
- クリックしない**
- 入力しない**

怪しいメールを受信したら・・・

不審なホームページやファイルを開き、PCの動作がおかしくなったら

- LANケーブルをPCから抜き、ネットワークから切断**する

動作がおかしいと思ったら・・・

- 迅速に**
- 正確に**
- システム担当者や管理職へ報告・相談**

第2回初任者訪問指導から

10月中旬から11月にかけて第2回目の新規採用教員訪問指導を実施しました。授業力向上（カリキュラム）支援センターではコンサルタントを中心に、先生方のサポートを行っています。カリセンに足を運んでいただき、授業や悩みについて相談してみても良いでしょう。

山田 恵子
コンサルタント



2学期半ば、以前にも増して先生らしくなられた姿に『さすが』と感心し、だからこそさらなる成長をと思い、ともに前進しなければと痛感しました。さあ、授業力向上に向けて一歩ずつ前進です。

○授業の流れに『ヤマ場』（ねらいに直結する盛り上がり）はあるか

- ・『ヤマ場』を充実させるために『導入』は適切（5分程度）か
- ・『ヤマ場』ではねらいにそった活動が保証されているか
- ・『導入』→『ヤマ場』→『まとめ』は思考の流れにそっているか

○発問は具体的か

- ・教師自身が発問の答えを幾通りも推測できているか（教材分析）
- ・多様な答えが導き出される発問であるか
- ・主要発問のみで授業の流れがつくれているか

○板書には思考の流れが示されているか（写真に撮って事後分析）

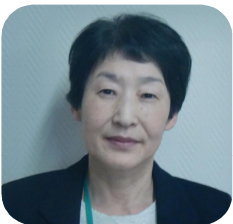
- ・表題、ねらい、様々な意見、まとめが一連の流れとして視覚化されているか
- ・板書は正確な文字でどの位置からも読みやすく、授業のキーワードが整理されているか
- ・板書でのフラッシュカード、色チョーク、区割りは適切であるか

○必然性、目的意識、感動、ゴールの姿が常にイメージされているか

- ・教師自身が教科書にあるから教えるのではなく、この教材を学ぶ楽しさを伝えたいと思えるか
- ・教師自身が感動し、共有するためにどれだけ多くの筋道をつくれるか

岡本 光子
コンサルタント

授業改善に向けて！Part II



○本時の目標（先生の指導目標＝児童生徒の到達目標の明示）

「～の活動を通して、～の理解を深める。」「～の学習を通して、～することが出来る力を身につける。」など、児童生徒がめざす目標を具体的に、簡潔に、わかりやすく文章で示し、見通しをもって学習に取り組めるようにしよう。

○振り返り（本時の目標の達成度の確認）

振り返りシートに記入、発問に対する児童生徒の発言、応用問題にチャレンジなど、本時の目標の達成度を先生も児童生徒も互いに確認する時間として授業の最後に振り返りの時間を確保しよう。

○板書の写真撮影（1時間の学習過程の記録）

授業中に机間指導を行いながら板書を確認しよう。また、板書を写真に撮り、児童生徒の目線で再確認し、改善に生かそう。板書ノートも作成し、授業の計画や記録として活用しよう。

○授業の録音（声で授業の振り返り）

発問や指示、説明などが適切か、確認しよう。先生や児童生徒の発言及び教室内の物音などから学習規律の状況を確認しよう。

○素直な心と甘える勇気（早期解決、早期改善の極意）

困ったときには周りの先生方の助けやアドバイスを得よう。アドバイスは素直に受け入れ、試しにやってみよう。